長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１３９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１２月４日(月)

独り言

最近、よくプロフェッショナリズムについて考える。先日は世界的バレリーナ吉田都さんの精神に触れた。バレエというと静かなイメージを持ちがちだが、身体的ストレスと運動量は相当なものだ。バレエには物語性があり、精神的な部分まで全身全霊を注ぎ、演技しなければならない。美しく華やかな跳躍にも隠された工夫とこだわりがある。着地の瞬間は足の指先から触れることから、指先まで鍛えているそうだ。氏は言う。「バレエはミリ単位の芸術です。」と。それを実現するためには高いスキルも必要であり、素晴らしい演技をするにはスキルの上にある燃え盛る情熱が必要である。

さて、自分をプロとしての視点で評価するとどうなのだろう？　複雑な心境になる。子供達や保護者に対して、プロとしてのサービスを提供できているだろうか。諦めずに課題解決の突破口を考え続けているだろうか。多くの分野でプロとは努力し続けることができる人と言うが、沈黙。

学校の大切な役割「社会性の育成」②

「小学校」ってどんな所？という質問に対して、保護者の皆様はどのように答えられますか？　私たちは法に則って日々の活動を行っていますので固いお答えしかできませんが、要は集団生活を通して学力や人間関係能力を磨き、最終的には国民として人格の完成を目指すことです。ということは、甘い場面ばかりではなく、厳しい場面もある訳です。

前回で「ルールの重要性」を伝えることも、学校の大切な役割であるということをお伝えしました。学校は集団生活を送る場所ですからルールがあります。また、学習する場所ですから、かなり細かなルールがあることは言うまでもありません。それらのルールを守ることによって、社会性を育んでいくと言ってもいいでしょう。そして、その学びは多くの行事で発揮されます。小学校６年間の最後の学びの発表の場は「卒業式」です。

卒業式というと、お子様の成長を改めて確認できる場と言いますか、入学式から６年の時を経て、保護者として感慨に耽る場とも言えます。卒業時の子供達は、精神的にもかなり成長しており、自我の芽生えと言いますか、親の束縛に対して疑問を感じ、些細なことに対しても抵抗することが多くなります。いわゆる思春期の入り口に立っている訳です。では、保護者としてどのように子供達と向き合えばいいのでしょうか。キーワードは、主体性、です。幼稚園や保育園の卒園式では、子供達は親の言うとおりに晴れ着を着せられます。しかし、小学校以降は違います。何をするにも子供達は自分に似合う姿を知っていますので、それまで見てきたことや先生方の指導、友達同士での情報交換…、その様なことを総合して、「自分はこうする！」と主体的に判断するようになります。子供達はその発達段階に合った、「相応しい姿」を知っているのです。

子供達が他者との関わりを通して、主体性を育んでいく過程で、いつかは、親は子供から離れなくてはなりません。そのタイミングは、今かもしれません！？

シリーズ「自分を語る」#１３９

地震直後から、我が家はガスの供給が絶たれていました。取り敢えず、土日は熱いタオルで体を拭いて凌ぎました。只々、風呂に入ることさえ有難いことなのだと、心の底から感じることができた当時でした。

慌ただしく地震直後の土曜、日曜を過ごし、月曜日の出勤です。後ろ向きなモチベーションのまま職場に辿り着き、デスクに就きました。地震の状況を校長先生に報告し、またデスクへ。仕事、何から手を付けていいのか？　私はパニックの状態だったのではないかと今になって思います。

この日、驚くようなことが起こりました。私に対する支援物資が届けられ始めたのです。土曜日曜も必要に応じて校長先生とは連絡を取っていましたし、ＰＴＡの方々へも状況を伝達されていたのだと思います。朝から、校長先生をはじめ、ＰＴＡ執行部の方々、保護者の皆様、先生方から、「これ役に立つか分かりませんけど…」といって多くの物を届けてくれたのです。ザッと上げますと、「水」、「カップ麺」、「野菜」、「米」、「お惣菜」、「レトルト食品」、「電気ポット」、「給水タンク」、「（野菜）ジュース」…、ほかにも沢山あったと思いますが、これらの物が大量に届けられ、私はこの荒尾第一小校区の人情と言いますか、温かい心に触れて涙が出ました。支援物資を車に積み込みながら、申し訳なさを感じつつも、いつか恩返しをしなければならないと思いました。恩返しはやはり「教頭として、荒尾第一小学校のために真摯に謙虚に感謝の気持ちを忘れず業務に専念すること」だと、私は思いました。当時、成果が上がっていたかどうかは分かりませんが、「真摯に、謙虚に、感謝して」という気持ちだけは今でも忘れていません。あの時頂いた支援物資に対しては、私の家族全員、感謝の気持ちしかありません。水道から出る水は濁っていて飲めませんでしたので息子たちは水をがぶ飲みしていましたし、両親は野菜をとても喜んでいました。私は何より皆さんの心意気が嬉しかったことを覚えています。

さて、相変わらず仕事に追われ続ける新米教頭澤田、この頃私は仕事を覚える…、というより人に催促されて仕事するといった具合でした。地震の影響で授業参観とＰＴＡ総会が１週間延期となり、教頭としての仕事がかなりの量あるにも拘らず、そのかなりの部分を校長先生に代わって貰いました。それまで主幹教諭としての経験はあったものの、教頭の事務的な業務を殆どやってこなかった付けが回ってきたのです。どんな仕事でも「やっつけ仕事」は出来て当たり前であり、その次にある仕事や創造的な仕事をすることが「働き甲斐」につながります。私はその「働き甲斐」を見つけられないまま、３か月ほどを過ごしてしまいました。事務仕事を覚えるのに時間がかかり過ぎたのですね。しかし、この頃の私は創造的な仕事はおろか、教頭業務を私ができるのか？という疑問まで持っていましたので、校長先生としては「おいおい、大丈夫か？　うちの教頭は…」ってな感じだったと思います。

この頃は私の自宅が酷い状況にあった事を、他の先生方も解って頂きましたので、気を遣って頂きました。家に帰っても風呂が無いので、私は自宅で行水をしていたのですが、そのためのお湯を沸かして頂くなど、多くの支援を頂いた時期でした。学校では運動会の準備に入っていく時期になっていました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）